

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：24601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04614

研究課題名(和文)アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した新たな医学部ジェンダー教育の構築

研究課題名(英文)The Developments of New Medical Education to Correct the Gender Gap in Academic Medicine

研究代表者

須崎 康恵 (Suzaki, Yasue)

奈良県立医科大学・医学部・講師

研究者番号：30382302

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：アカデミックキャリアの男女医師間格差に繋がる要因を明らかとするため、奈良県立医科大学の学生と臨床研修医を対象に意向調査を実施した。結果、男女ともに高学年は低学年と比べキャリアイメージを明確化するが、卒後、女性研修医は将来像を明確化することが困難となり、キャリア形成意欲も低下することが解った。昇進意欲は、低学年から研修医まで一貫して女性は低く、性差を認めた。男子学生の過半数は、医療界で男女共同参画は既に実現し、アカデミックキャリアに性差はないと回答する等、男女共同参画の認識が女性と比べ低かった。男女医師間格差解消のためには、卒前・卒後に男女共同参画の現状を伝え、認識を高める医学教育が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果を基に、アカデミックキャリアの男女医師間格差の解消を目指した教育プログラムを作成し、奈良県立医科大学で実施した。低学年の授業では、男女共同参画の理念および日本社会と医療界の男女共同参画の現状を世界との比較とともに伝え、男女共同参画の理解を促した。高学年と研修医には、キャリア教育の一環として、男女共同参画実現のために必要な職場環境や障害となる事柄の解決方法について情報を提供した。本プログラムは、学生や研修医が男女医師間格差を解決すべき課題と認識するのに役立ち、解決を担うのは自分達であるという当事者意識を促すのに有効であることが、提出されたレポート等から明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：Women are less likely to succeed in academic medical careers in Japan than men. To identify the gender-based career obstacles, we performed a survey of medical students and residents in Nara Medical University. Although most of students after clinical clerkship clarified their career paths regardless of gender, women residents became to feel difficulties in clarifying their future images. At the same time, they decreased motivation in academic career development compared with men residents. Women had less desire for a promotion than men from lower class of medical school to residents. More than half of men students answered gender equity had been achieved and there was no gender gap in academic medicine. The ratio of men students who think academic medicine is male dominant was much lower than that of women students. To correct the gender gap in academic medicine, medical education which improves knowledge and awareness of gender equity is needed for medical students and residents.

研究分野：医学教育

キーワード：ジェンダーと教育 男女共同参画 アカデミックキャリア 男女医師間格差

1. 研究開始当初の背景

我が国では、男女共同参画・女性活躍推進を重要政策として進めているが、医学界では未だ男女医師間のキャリア格差が顕著である。医師数においても、本邦の女性医師は近年増加傾向にあるが、平成26年時点で届出医師の20.4%(厚生労働省資料)と、30%以上が女性である欧米諸国と比較して少ない。特に、次世代の教育や臨床研究を担う医学部教員の女性医師の割合は10%台と低く、助教から講師、准教授、教授とアカデミックキャリアパス形成のステップを追うに従い女性比率が著しく減少する。アカデミックキャリアの格差が、医学部大学役員や学会役員等、医学界の意思決定に関わる女性医師が極端に少ない一因と考えられる(日本医師会 雑誌 第143巻・第6号)。医師国家試験合格者に占める女性の割合は、近年30%台前半で推移している(厚生労働省資料)ことから、現在のアカデミックキャリアにおける男女医師間格差が、数の不均衡のみでないことは明らかであり、男女両性の健康増進の観点からも是正されるべき課題である。医学部卒業後、医療技術習得に長期間を要する医師は、他の分野の研究者と比べ研究開始時期が遅くなり、臨床業務に育児や出産等のライフイベントが加わると研究継続が困難となる。キャリア格差解消には、長時間労働の是正、研究とライフイベントの両立支援が引き続き必要であるが、これまでの各医育機関の取組報告からも環境整備のみでは不十分である。両立支援と同時に、男性の男女共同参画の意識や女性のモチベーションを高める医学教育の確立が必要と考える。

2. 研究の目的

本研究では、卒後のアカデミックキャリアに性差が生じる当事者側の内的要因および職場環境やハラスメント等外的要因を明らかにするため、医学生と初期臨床研修医を対象に意向調査を行った。また、キャリア向上のために必要とする情報や機会の要望を男女、学年別に明らかとし、アカデミックキャリア向上や格差解消の動機づけと情報提供が可能な教育プログラムの作成を目指した。

3. 研究の方法

奈良県立医科大学に在籍する医学科学生691名と臨床研修医83名を対象に、男女共同参画とアカデミックキャリア男女間格差に関する認知度や意識、アカデミックキャリア形成意欲、自身のキャリアプラン、アカデミックキャリア向上に必要な情報や機会等について、リッカート5段階尺度による評定質問を中心に、設問によっては自由記載形式を採用し、無記名質問票直接配布回答方式で意向調査を行った。調査実施期間は、平成28年11月1日から12月27日とした。配布数と有効回答率は図1に示すとおりで、90%以上の学生、45%以上の臨床研修医から有効回答を得た。

図1 配布数と有効回答率

	学 生						臨床研修医	
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年目	2年目
配布数	116	113	124	119	110	109	39	44
	男	78	88	94	94	74	75	23
女	38	25	30	25	36	34	16	14
有効回答数(人)	111	104	116	113	109	107	20	20
	男	75	81	87	90	74	74	9
女	36	23	29	23	35	33	11	10
有効回答率(%)	95.7	92.0	93.5	95.0	99.1	98.2	51.3	45.5

4. 研究成果

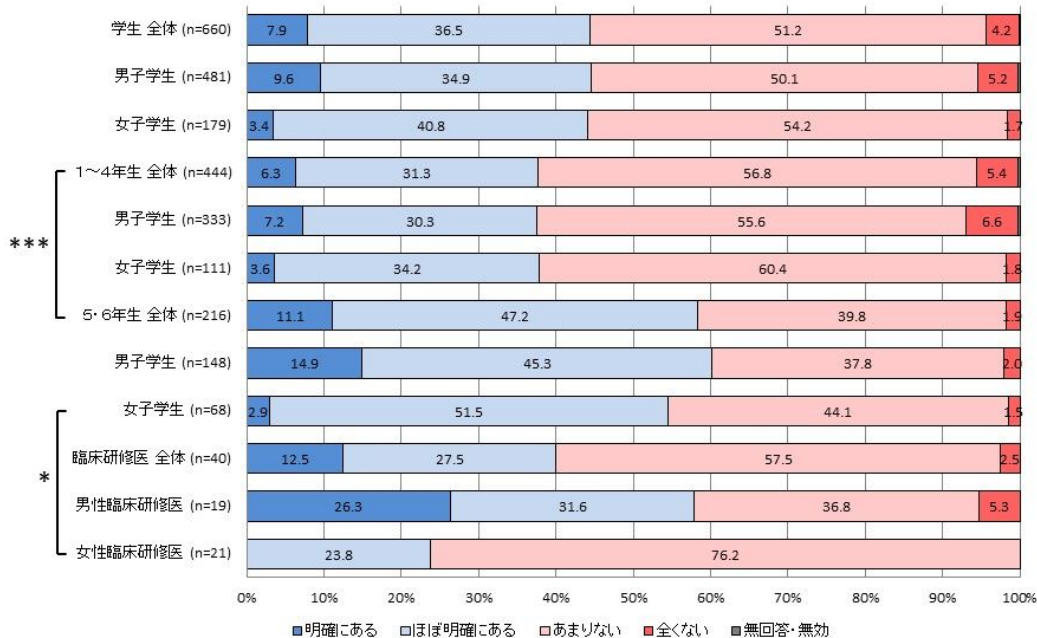
(1) 自身のキャリア計画

臨床実習後の学生(5,6年生)は、臨床実習前の学生(1~4年生)と比べ、卒後の具体的なキャリアイメージが明確にあると回答した割合が男女共に高かった(図2)。臨床実習が、男女を問わず、自身のキャリアを考える機会になっていると考えられる。一方、女性研修医は、臨床実習後の女子学生と比べて、具体的なキャリアイメージが明確にあると回答した割合が低く、キャリアに関する迷いや悩みを抱えていることが推察される。男女共に将来は病院(大学を除く)で従事したいと回答した割合が最も高く、大学教員を希望する割合は低かった。しかし、臨床実習後の学生と研修医では、男性を中心に、臨床系教員を希望する割合が高くなった。昇進意欲に関しては、男女間に有意な差を認めず、男子学生では、臨床実習後、将来管理職に就きたいと考える

割合が有意に高くなり、男性研修医においてもその割合は過半数を超えていた。一方、女性は、低学年から研修医まで一貫して、昇進意欲は低いままであった(図3)。今後、医師にとっての昇進の意義を考え、男女間に存在する昇進意欲の差について考える機会が、医学部のキャリア教育の中で必要である。

図2 キャリアイメージ

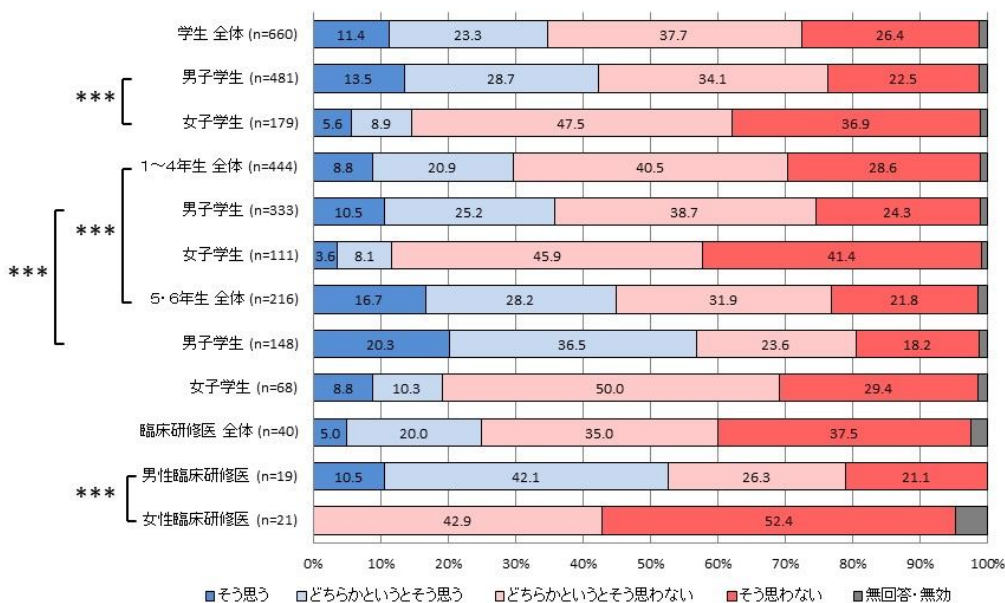
卒後/臨床研修終了後の具体的なキャリアイメージはありますか



* p < 0.05, *** p < 0.001

図3 昇進意欲

将来、管理職(教授・部長など)に就きたいと思いますか



*** p < 0.001

(2) キャリア形成に必要な事から

女子学生は知識、体力、語学力、ボランティア精神を男子学生と比べて重要視しており、男子学生は組織のマネジメント能力を女子学生と比べて重要視していた。専門医認定を得ることに關しては、臨床実習後の学生と研修医は、実習前の学生と比べ、男女共に重要視していた。一方、博士(医学)の学位取得に関しては、臨床実習後の学生は、実習前の学生と比べて、男女共に重要視はしているが、5段階尺度の平均値は4未満と他の項目と比べると低かった。研修医では、博士(医学)の学位取得の重要度は、男性研修医の $\text{mean} \pm \text{SE}$ (4.05 ± 0.97) が女性研修医 (3.33 ± 0.86) と比べて有意に高く、男性研修医に臨床系教員の希望割合が高いことや将来管理職に就きたいと考える割合が高いことと整合性が見られた。

(3) キャリア形成に不安を感じる事から

臨床研修医は、男女共に、就労環境(休日・休暇の取得、長時間労働、給料・収入)や家族の支援・理解、結婚・出産・育児、ワーク・ライフ・バランス、自分の内的要因(自分の知識・能力、意欲・向上心の持続、自分の健康状態)について、学生よりも強い不安を感じていた。研修医が抱える様々な不安に対する解決策を見出すためには、年齢やキャリアの異なる多様な医師と対話する機会を臨床研修期間中に提供することが重要と考える。一方、学生は研修医と比べると不安を感じる項目は少ないが、項目によっては性差を認めており、ワーク・ライフ・バランスや結婚・出産・育児については、女子学生が男子学生よりも強い不安を感じていた(図4)。在学中の学業成績からではなく、ワーク・ライフ・バランスや結婚・出産・育児に対する予期不安から、女子学生が将来のキャリアの選択肢を狭めている可能性も考えられる。医学部学生の頃から、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスについて学ぶ機会が必要である。また、男女に関わらず学生と研修医の約70%が、人間関係・ハラスメントに対して不安を感じていた。彼らが今後、ハラスメントの被害者にも加害者にもならないためには、大学や職場で生じるハラスメントについて学び、防止策を考える機会を医学教育の中で提供することが望ましい。

図4 女子学生のキャリア形成に対する不安

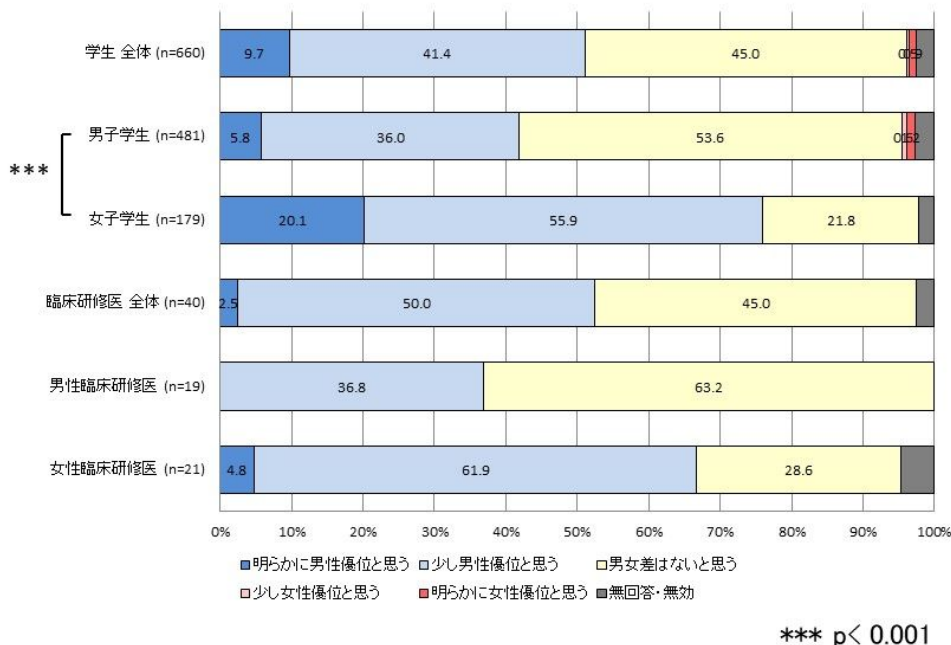


(4) 男女共同参画の認知度

男子学生と男性研修医の過半数が、男性医師と女性医師の間にアカデミックキャリアの形成に格差はないと回答したが、女子学生と女性研修医では過半数が男性優位と回答した。アカデミックキャリア形成において、男性優位と考える割合は、女子学生の方が男子学生と比べて有意に高かった(図5)。日本の医学界では未だ男女医師間のキャリア格差が顕著であるが、男子学生や男性研修医にはそれら格差についての現状認識が乏しい。また、学生と研修医の過半数は、男女共に、医師の職場において男女共同参画が実現していると回答したが、実現していると回答した割合は、男子学生の方が女子学生と比べて有意に高かった。

図5 アカデミックキャリア男女医師間格差に関する理解

アカデミックキャリア(学位取得割合、研究業績、大学での職位等)の形成に、男性医師と女性医師の間で格差はあると思いますか



(5) アカデミックキャリア男女医師間格差解消を目指した教育プログラムの実施

研究結果を基に、アカデミックキャリアの男女医師間格差の解消を目指した教育プログラムを作成し、平成 29 年度以降改良を加えて奈良県立医科大学医学科で実施している。医学科第 1 学年には、教養教育科目の医学研究入門で、国内外の研究者・医師における男女共同参画の現状、研究の魅力、医師が研究に携わり研究業績を積むことの意義を伝える授業を行っている。第 2 学年には、6 年一貫教育授業科目・良き医療人育成プログラムの中で、男女共同参画の理念および日本社会と医療界の男女共同参画推進に必要な事柄を伝え、男女共同参画の理解を促す授業を行っている。授業の後半は、自身のキャリア形成のため学生時代に経験したいこと、現在の生活で改善すべきこと等を学生が考えるグループワークを行っている。第 5 学年には、臨床実習の中で、本意向調査の結果と本学で勤務する医師の男女共同参画の現状や就労環境、ワーク・ライフ・バランスに関するアンケート調査の結果を示し、男女混合の小人数グループで対処法や解決策を考える授業を行っている。また、医師が組織で昇進する意義、医師が研究や教育を行う意義についても学生間で議論を重ねている。その過程で、男子学生には、学業面に差がない女子学生が、性別役割分担感等社会通念から将来のキャリア形成に不安を抱いていることの理解を促し、男女共同参画の意識を高める工夫をしている。同時に、女子学生には、指導的立場に立つ女性医師の増加は医学界に多様性を生み、医療を更に発展させる可能性があることを伝え、自身がその当事者であるという自覚を促すよう努めている。臨床研修医には、参加必須の講習会で、ワーク・ライフ・バランス推進やハラスメント防止について議論する機会を設けている。今後も、本学の教育開発センターや臨床研修センターと協働の上、アカデミックキャリアの男女医師間格差解消を目指した教育プログラムを発展させ、全国の医育機関への普及を目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 須崎康恵
2. 発表標題 医師の男女共同参画
3. 学会等名 第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第62回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第67回日本化学療法学会西日本支部総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 須崎康恵
2. 発表標題 医学生と臨床研修医を対象としたキャリア形成に関する意向調査
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 文子 (Mizuno Fumiko) (70271202)	奈良県立医科大学・医学部・講師 (24601)	
研究分担者	岡本 希 (Okamoto Nozomi) (70364057)	兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授 (14503)	

